

sponsored by Panasonic

P2HD 特集①

宮崎放送がP2HD本格運用

「ローカル局変革の正念場」

宮崎放送(MRT)は、報道システムに松下電器産業の半導体メモリーシステム「P2HD」の運用を昨年9月から開始した。半年間運用した現在、取材の9割でP2HDが稼働し、ニュース番組制作は完全HD化している。撮影から編集・送出まで、P2HDによる一貫した運用を展開。その運用形態には、自社の経営環境、現場ニーズなどに即したさまざまな工夫が施されている。

●P2カムが9式稼働
MRTは昨年9月、P2 HDシステムとして、カメラ1500を配備した。本社ラレコターのP2カム3式、収録・送出システムのP2デッキ6式、P2カム10式を追加導入し、100枚のP2カードを持つ。カードの管理には、ICタグを使用していることも特徴だ。

また、県内に3カ所ある報道支局(とりかみ「AJ-HPX555」を1式ずつ100×3、P2デッキが「AJ-HPX1500」×6、P2カードは8×4×40、16枚×30で構成。その後、32枚×30枚を追加導入し、100枚のP2カードを持つ。カードの管理には、ICタグを使用していることも特徴だ。

運用当初、取材におけるカメラレコーダーの使用比率は、P2HD4割、ベータカムが6割と、VTR収録を混在させていたが、半経った現在、P2HDによる取材が9割以上を占め、テープレス化が一気に加速した。10割に満たないのはP2カムが3式しかないことによる。導入予定の3式Dテープベースのシステムだが、編集には報道系と同じP2ドライブ搭載機を導入しており、報道系の編集機が足りない時、やむを得ずベータカムに切り替えているという。さら

に今年度内には、さら映機製のAVCインフラ対応ノンリニア編集システム「PrimeEdit」を導入予定で、これにより、報道編集設備のHD化が完了する。



L1サブ(制作および報道で使用)でタッチパネル式のP2コントローラを操作する岩元氏



ICタグシステム



P2カム「AJ-HPX2100」



P2ドライブを搭載した報道編集システム



橋口常務

作業ごとにICタグで管理

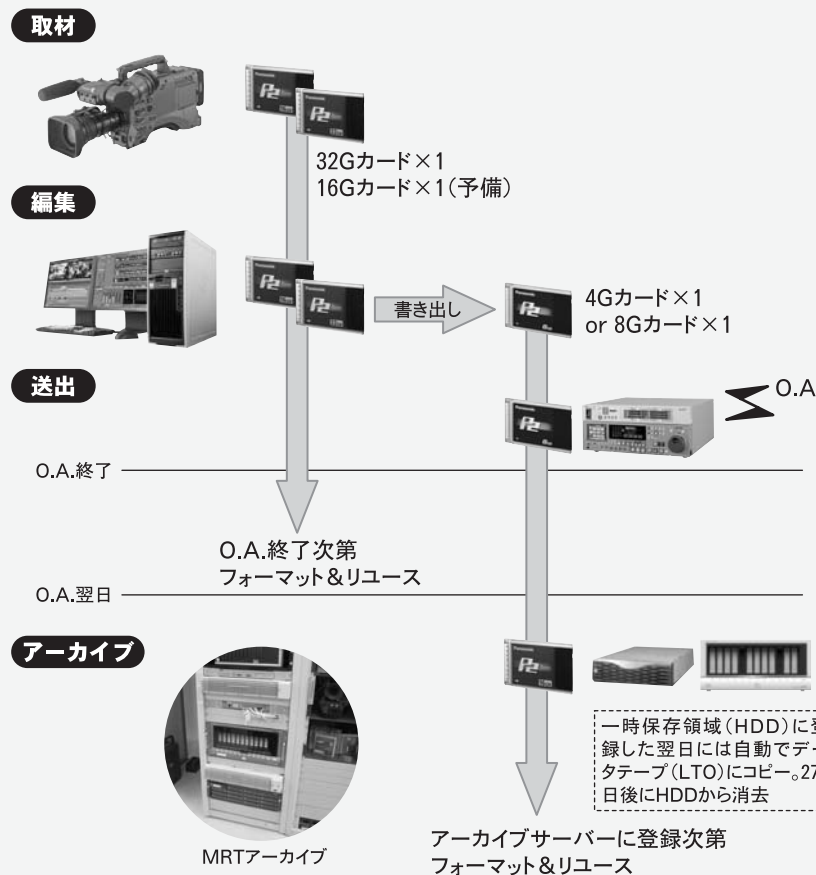
P2HDカードの管理は、ICタグを利用したIC管理システムを採用している。ICタグを利用したIC管理システムを採用している。ICタグを利用したIC管理システムを採用している。ICタグを利用したIC管理システムを採用している。

運用当初、取材におけるカメラレコーダーの使用比率は、P2HD4割、ベータカムが6割と、VTR収録を混在させていたが、半経った現在、P2HDによる取材が9割以上を占め、テープレス化が一気に加速した。10割に満たないのはP2カムが3式しかないことによる。導入予定の3式Dテープベースのシステムだが、編集には報道系と同じP2ドライブ搭載機を導入しており、報道系の編集機が足りない時、やむを得ずベータカムに切り替えているという。さら

の完成度も高いため、P2HDを中心とした態勢を基本とする。導入後はテープ購入せず報道制作局報道制作映像部主任の岩元和也氏は、運用のメリットについて「P2HD導入以降、取材用のテープは購入していない」「取材から編集への取り掛かりが迅速になったこと」を挙げる。編集・送出間の素材のやりとりは、P2カードを持ち運び、直接送出デッキにカードを挿入する。岩元氏は「まず、第1段階からアーカイブシステムまで

の完成度も高いため、P2HDを中心とした態勢を基本とする。導入後はテープ購入せず報道制作局報道制作映像部主任の岩元和也氏は、運用のメリットについて「P2HD導入以降、取材用のテープは購入していない」「取材から編集への取り掛かりが迅速になったこと」を挙げる。編集・送出間の素材のやりとりは、P2カードを持ち運び、直接送出デッキにカードを挿入する。岩元氏は「まず、第1段階からアーカイブシステムまで

宮崎放送 デイリーニュース P2カード運用フロー



通信部取材フォーマットにもP2HDを採用

フィルム時代からのカメラマンも違和感なく運用。宮崎放送は、日南・延岡・都城の宮崎県内3カ所の通信部(報道支局)の取材フォーマットとしてP2HDを採用した。各所にP2HDカムコーダー「AG-HPX555」をHDD再生し、HD-SDI出力を富士通製IPエンコーダーによりネットワークを介してMRT本社まで伝送する。IP回線が不通の場合に備えて、既設アナログ



AG-HPX555と加茂川カメラン(左は素材送出架) (日南通信部)

取材者や編集、送出担当の社員にもICタグを割り振る。P2カードを持ち出す場合、所定の場所で管理用リーダーに通すことで、待ち、送出といった作業の

なかでルーチン化しているという。使用後、データが消去されたP2カードは、所定のリーダーに通さなくとも、それを不満足とする見はなく、既に日常業務の



L1サブの送出用P2デッキ「AJ-HPS1500」にP2カードを挿入

ラックに容量と使用形態ごとに分りやすく収められ、スタッフが即座に持ち出せるようになってきている。制作系の今後のP2HD採用について橋口常務は、「報道制作局長は、「素材を蓄積するサーバー系を整備されれば、制作系もP2に移行することになるだろう」と話す。岩元氏は「報道系と違い、素材を撮りためたテープの管理は、基本的にディレクターの個人管理になっている。根本的な意識改革も同時に進める方が良い」と述べている。

●ENG化と同じ変革期
橋口常務は「ウェブなどメディアの多様化の中で、ローカル局は正念場でもあると思う。今後、ローカル局は、自社制作比率を高めることや、いかにコンテンツを確保できる企業であり続けるかが大きなテーマ。その中で、ライブのコンテンツの確保が重要になってくるだろう。P2を駆使することで、より幅広い地域コンテンツの制作ができることを期待している」と述べている。